

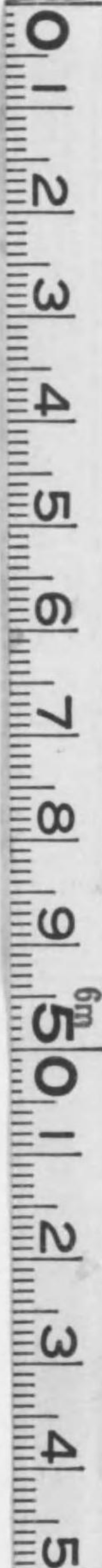
特47-197



1200800204199

160
1089
禱

无邪志會立會緒言



始



No 2776 / 23

立會緒言

心外ニ馳スル者ハ、内、其ノ守ヲ失ヒ目、彼ニ眩スル者、是其ノ
 跌クコトヲ知ラズ。蓋シ守ル可キ者ハ心。失フ可カラザル者
 ハ我。苟モ保守ノ固カラズ、我ヲ忘レテ持スルコト無キ、風吹キ
 雨至ルモ、漂浮搖落、將ニ定マル所無カラントス。不幸ニシテ
 一旦、物ノ牽ク所トナレバ、目先ツ之ニ眩シテ、心モ亦隨テ馳
 ス、是ヨリ其ノ後、轉輾據ヲ失テ、狂奔妄走、中路ニ困頓シテ、世
 ノ笑トナル。苟モ保守ノ固キ。明、蔽ハル、所無ク、神、完キ所有
 レバ、其ノ外ニ應スルノ方、綽然トシテ餘裕有リ。百魔千妖、譎
 詐脅誘、百端、吾ヲ試ムル者アリト雖、彼、將タ我ヲ奈何センヤ、
 夫レ一人ノ事ハ、千萬人ノ微ナリ。千萬人ノ事ハ、一人ノ積ナ
 リ。一人心ヲ守ルダモ、尙ホ奪フ可カラズ。而ルチ況ヤ千萬人



ノ衆ヲヤ。之ヲ推シテ國家ニ至ルモ、亦然リ、然ラバ則、國家ヲ
持スルノ策、其レ亦將ニ心ヲ守テ我ヲ失ハザルニ在ラント
スルカ。蓋シ徳川氏ノ末造ニ當リテ、國ヲ舉テ皆ナ弊。上、秕政
アリ、下、汚吏アリ、賄賂公行シ、言路窒息シ、姦人權ヲ弄シテ、良
民屏息シ、文虛ニ武緩ヒ苟且安ヲ偷ミ、士氣振ハズ、國力彫盡
シ、其ノ勢、且暮ニ將ニ潰裂崩散セントシテ知ラズ。偶、憂世ノ
語ヲ發スル者アレバ、目スルニ亂人ヲ以テシ、其ノ口ヲ箝シ、
其ノ身ヲ制ス。既ニシテ海門守ラズ、米艦浪ヲ破テ至レバ、幕
吏錯愕、計ノ出ン所ヲ知ラズ、城下ノ盟ヲ免カルト雖、法稅ノ
二權、實ニ彼ガ奪フ所トナリテ、之ヲ敢テ支吾スルヲ莫シ。其
ノ國休ヲ辱シムルヤ甚シ。其ノ國家ヲ害スルヤ多シ。是ニ於
テカ、四方敵愾ノ士雲ノ如ク起リ、大聲疾呼シテ、勤王討幕ノ

說ヲ唱ヘ、紛々擾々、五畿七道、之カ爲ニ震蕩ス。而シテ新府政
ヲ還シ、將軍罪ヲ謝シ、帝都東遷ニ到テ然シテ後ニ止ム。是ノ
時ニ當リテ、譬ヘバ猶ホ雷雨新ニ霽レテ、積鬱盡ク解ケ天日
再ヒ中スルガゴトシ。王綱更ニ張り皇化普ク及ビ、宿弊頓ニ
銷エ舊陋俄ニ改リ、人唯、其ノ故態ヲ破ルノ快キヲ知ルノミ
而シテ海外ノ奇器異物妙術絕技新ニ至ル。夫レ人、故ヲ破ルノ。
心太ダ切ナレバ、新ニ趨ルノ念亦必ス急ナリ。人、既ニ新ニ趨
ルニ急ナリ、而シテ之ニ投ズルニ奇異情ヲ可キノ物ヲ以テ
ス。其ノ一時靡然トシテ之ニ向フハ、猶ホ氷ノ下キニ就クカ
コトキノミ。沛焉トシテ來ル、又烏ンソ避クル所ヲ擇ブニ暇
アラシ。是ノ時ニ當リテ、内、飲食衣服居室什具百須ノ器ヲ觀
レバ皆、耳目手口ニ馴ル、者ノミ。風俗儀制政治教化日用常

行ノ道、皆心術施爲ニ熟スル者ノミ。夫レ身ニ近キ者ハ狎レテ之ヲ侮リ、遠キ者ハ珍トシテ之ヲ尙フハ、俗ノ所謂ル人情ナリ、是ニ於テカ、我が幼ヨリシテ習フノ物ヲ斥ケ、熟シテ安スルノ業ヲ棄テ、必ズ彼ノ未ダ習熟セザル所ヲ牽キ、以テ悉ク我ヲ易ヘントス。曰ク、長チ取テ短チ補フナリト。而シテ一議ヲ起セバ、則曰ク、西客ノ説是ノ如シト。一事ヲ創ムレハ、則曰ク、洋外ノ法皆然リト。此ノ若クナラザレバ、以テ人ヲ服スルニ足ラズ、人モ亦侮リテ信セザルナリ。其ノ極ニ至リテハ、國籍ヲ脱センコトヲ請フ者之アリ。其ノ毛ノ紅ナラズ其ノ目ノ綠ナラザルヲ忠フル者之アリ。他族ヲ滋ラシテ、我ニ逼リ處ラシメテ、以テ種ヲ吾カ神州ニ易ヘシメントスル者之アリ。雜然トシテ之ニ雷同スル者之アリ。是ノ時ニ當リテ、唯彼

ニ在ルノ慕フ可キヲ視テ、我ニ在ルノ美、敗ル可ラザルヲ視ズ。舞踏會ノ如キ、裸人畫ノ如キ、一ニ皆ナ淫縱醜穢ノ餘習ニ出デズンバアラズ、而モ事、彼ニ行ハルレバ、則、其ノ美ヲ稱シ、其ノ善ヲ説キ、之ヲ庠序ノ游息ニ斷ビ、之ヲ昇平ノ耳目ニ耀サントス。而シテ未曾テ自カラ其ノ志尙ノ卑猥ナルコトヲ悟ラズ、其ノ世道人心ニ害アル幾何ナルヲ知ラザルナリ。夫レ然リ風俗頹廢、德義地ヲ拂ヒ、質實嚴正ノ美破レテ、奢侈淫靡ノ心起リ、忠信廉恥ノ維解ケテ、功利鄙爭ノ慾熾ンニ溫柔敦厚ノ教廢シテ、狡狴輕佻ノ徒多ク、其ノ父子兄弟ニ於ケル、猶ホ憚カル所無ラントス、噫、何ゾ其レ甚キヤ。夫ノ紅毛綠眼ノ人、目光炯々、利ニ喩ルニ敏ナリ、苟モ問ノ投ス可キアリテ、豈ニ之ヲ遺ス者ナランヤ。而シテ又豈ニ人ノ危ニ乘ルニ忍ビ

ザルノ情アラシヤ。彼固ヨリ陰險不測ノ心アリ、以テ吾カ擧
 笑チ試ミ、蹉跌チ伺フ、眞ニ豺狼妖魔ノ如キノミ。而ルチ復タ
 之ガ欺チ買ヒ、之ガ侮チ納レテ、之ニ隙チ視サハ、亦危カラズ
 ヤ。然リ而シテ外慕ノ深キ、内ニ顧ルニ暇無ク、之チ持スル所
 以ノ策チ講セズンバ、之チ心チ守ル固カラズ、我チ忘ル、實
 ニ多キ者ト謂ハズシテ、何ゾヤ。
 夫レ彼ノ長チ取リテ、我ガ短チ補フハ、彼、長ニシテ我、短ナル
 チ以テセルニ非ズヤ。然リ而シテ彼ノ事物、皆果シテ我ヨリ長
 ゼルガ。彼ノ長、皆果シテ之チ取リテ我ニ利アルカ。我ノ事物
 皆果シテ彼ヨリ短ナルカ。我ノ短、皆果シテ之チ舍テ、我ニ
 害無キカ。害無キ者ハ之チ舍テ、可ナリ。利アル者ハ之チ取
 リテ可ナリ。抑、其ノ間、亦、彼ノ長、未ダ必シモ取ル可カラズ、我

ノ短、未ダ必シモ舍ツ可カラザル者無ラシヤ。又將タ之チ舍
 ツルノ害、舍テザルノ害ヨリ甚シク、之チ取ルノ損、取ラザル
 ノ損ヨリ多キ者無ラシヤ。此レ未タ遽ニ言ヒ易カラザルナ
 リ。而ルチ况ンヤ東西各、長短アリ、利害自ラ相異ナル者アル
 ニ於テヲヤ。之チ奈何ソ彼ニ在レバ必併テ之チ取リ、我ニ在
 レバ悉ク皆之チ舍ツルヲ得ン。
 抑、之チ取レバ國家ニ利アリ、而シテ取ラザル者ハ、國家ヲ利
 スルヲ知ラザル者ナリ。國家チ愛セザル者ナリ。國家ニ忠
 ナラザル者ナリ。之チ取レバ國家ニ害アリ、而シテ之ヲ取ル
 者モ、亦國家チ利スルヲ知ラザル者ナリ。國家チ愛セザル
 者ナリ。國家ニ忠ナラザル者ナリ。之チ要スルニ長チ取テ短
 チ補フノ失トスルニ非ズ、人、皆チ取舍ノ間其ノ擇フ所ニ惑

八
フノミ。故ニ鐵繼火礮、之ヲ買フ可ナリ。其ノ操練ノ巧、鑄冶ノ方、之ヲ學フ可ナリ。算數醫藥窮理博物ノ書、之ヲ習フ可ナリ。大凡ソ形而下ノ器、方術技藝、彼ニ取テ我ニ利ナル者、之ヲ取リテ可ナリ。是ノ若キノ類、吾人唯、吾カ國家ヲ利スルトヲ知ルノミ、猶ホ何ノ内外チカ固執セソ。嗚呼、孰カ識ラン國、其ノ土チ異ニシ、人、其ノ族チ異ニシ、氣候異ニ、動植ノ物異ナレバ、飲食衣服器用居室自ラ異ナラザルトチ得ズ、風俗氣習慣例儀制亦隨テ異ナラザルトチ得ザルトチ。此レ固ヨリ天地處勢ノ自然、万國各、其ノ宜キアルノミ。取舍長短ノ談、又何ゾ容易ナラン。

古詩ニ之アリ、他山ノ石、以テ玉チ攻グ可シト、攻グ所ノ者ハ玉ナリ。用ウル所ノ者ハ石ナリ。石ニ取ル所ノ者ハ、其ノ能ク

攻ク可キヲ以テナリ。貴キ所、玉ニアリ。石ニアラザルナリ。且ツ既ニ玉チ攻ゲバ、石、忘ル可キナリ。人能ク是ノ義チ知リテ、然シテ後、始テ與ニ取舍長短ノ事チ語ル可キノミ。

夫レ天、美チ皇邦ニ鍾ム、草木國土、皆、玉ニ非ルハ莫シ、寶山珠樹、八面玲瓏、挺立シテ不盡ノ嶽トナリ、煥發シテ作樂ノ花トナル、花ニ國香アリ、嶽ハ則國鏡。之ヲ覆フニ玻璃明澈ノ空チ以テシ、之ヲ繞ラスニ琉璃綠淨ノ水チ以テシ、外、其ノ疆場チ嚴ニシ、以テ他ノ覬覦チ絶ツ。内ハ則、陰陽偏ナラズ、寒暑時ニ至リ、水土ノ氣清淑ニシテ、人物ノ生靈秀、沃野多ク、嘉穀殖ス。乃チ地着ノ民アリ、業ハ農桑チ重ンス。其ノ山澤ノ富、黃金白銀ハ、天下美寶ナリ。修竹茂林ハ民生ノ利用ナリ。而シテ沿海魚鹽ノ利ハ、舟舶ノ便ト俱ニ到ラサル所莫シ。其ノ官殿衣冠

ハ、幽邃ニシテ嫺雅、其ノ言語文章ハ、溫柔ニシテ微妙、其ノ習俗志尙ハ、質直ニシテ敦厚、高潔ニシテ優美、仁壽ノ人多クシテ、君子國ノ名出ツ。抑、猶ホ大ナル者アリ。皇室ノ美ハ、日月ト俱ニ懸リ、天地ト榮チ齊クシ、至高コシテ下ト亢セズ、既ニ尊クシテ又親アリ、烟チ凶歳ニ望ミ、衣チ寒夜ニ脱シ、博愛至仁、民チ懷フト眞摯、聖子神孫、其ノ洪猷懿範チ守テ墜サス。乃チ万国ノ仰慕シテ欽羨スル所、所謂ル絶テ無クシテ僅ニ有ル者ナリ。而シテ其ノ王民ノ美ハ、率實忠厚、赤心以テ奉シ、一旦事アルニ臨ンデハ、皇命ニ奔リ、國難ニ殉スル、未ダ曾テ毫モ畏難ノ色アル者アラズ。宇佐ノ宣、湊川ノ死、婦人、小子、走馬ノ卒ト雖、猶ホ能ク其ノ義烈節概ノ在ル所チ知り、竹帛金石ノ職チ待マズシテ、人、之チ心地ニ銘シ、万世隕サズ。此レ皆チ天

源ノ美ナル者ナリ。而シテ其ノ末流餘波、延テ刀劔畫續陶梓ノ器ニ及ンテ、其レ亦忠厚義烈ノ氣ノ鍊ル所、高潔優美ノ風ノ染ムル所、小器曲藝ト雖モ、猶ホ以テ美チ宇内ニ專ニスルニ足レリ。

蓋シ人各、其ノ身ニ貴キ者アリ。特ニ其ノ自ラ敬シテ之チ養ヒ、自カラ愛シテ之チ育スルトチ知ラザルチ患フルノミ。若シ人、其身ニ貴キ者アルチ知ラバ、國ニ於テ寧ロ獨リ我ニ貴キ者アルチ知ル可カラザランヤ。今、美是ノ如シ、此レ豈ニ貴フ可キニ非スヤ、願フニ其ノ敬養愛育スル所以如何ノミ。且ツ夫レ高ク紅旭ノ旗ヲ樹テ、東海ニ表タル者ハ、獨リ吾ガ大日本帝ニ非ズヤ。是邦ヤ、亘古未ダ曾テ他ノ陵駕スル所ダラズ。其ノ正氣美風ノ涵養發作スル所、文材チ以テシ、武幹

チ以テシ、或ハ衝チ俎豆ノ間ニ折キ、或ハ譽チ千里ノ外ニ延
 フル者、何ツ音、一二ニシテ止マラフヤ。且ツ昔者神功皇后ハ、
 婉淑ノ母儀タリシモ、圓帷チ越ユ、躬親カラ遠ク征シテ、三韓
 心服シ、豐太公ハ、英傑ノ天姿アリシカバ、徒歩ヨリ起リ、兵チ
 引テ西面スレバ、朱明色チ失ヘリ、而シテ北條時宗ハ、鎌倉ノ
 一幕吏タルニ過ギズ。然レ臣無禮ノ元使チ斬リテ、弘安十萬
 ノ寇、生テ還ル者僅ニ三人。伊達政宗ハ、東奥ノ一藩臣タルニ
 過ギズ。而モ手兵三千チ提ゲテ、出テ、海外ニ師センコトチ請
 ヘリ。其ノ事寢ムト雖猶ホ以テ人意チ強クスルニ足レリ。其
 ノ餘、鎮西八郎、源九郎ノ輩ノ若キモ、或ハ其ノ弩末、猶ホ沖繩
 ヲ舉ゲ、或ハ其ノ遺愛、今ニ到テ蝦夷ノ酋チシテ食フ毎ニ必
 ズ拜セシム。此レ皆チ婦人、匹夫、幕吏、藩臣、敗軍ノ將、亡命ノ人

ノ能クスル所、而モ其ノ國体チ辱シメズ、國威チ墜サズトス
 ルコト、果シテ如何ツヤ。

嗚呼、建國ノ体面、是ノ如ク粹美、立極ノ精神、又是ノ如ク尊嚴、
 儼乎トシテ犯ス可カラズ、俯乎トシテ尙フ可カラズ。其ノ元
 氣ノ發モ、亦浩々乎トシテ辱シム可カラザルコト是ノ如シ。而
 シテ益、之チ敬養愛育シテ、以テ其ノ美チ完クシ、其ノ基チ固
 クスルコトチ勉メズ、反テ妖魔ノ侮弄チ甘ンシ豺狼ノ恐嚇チ
 受ケ、其ノ驅使スル所トナラバ、音、ニ吾人ノ恥ノミニアラズ
 其ノ罪タル、亦、決シテ輕カラザルナリ。然リ而シテ偉然タル
 丈夫、口チ開ケバ則、古人ヲ蔑如シテ、畏ル、ニ足ラズトシ、古
 法チ忽諸シテ、用ウルニ足ラズトスル者ニシテ、而モ其國家
 チ利スル所以ト、其ノ忠ニシテ又愛スル所以トチ問ヘバ、猶

ホ目眩シ心馳スル者ノ言ヲ免レズ。豈ニ哀シカラズヤ。然リト雖、人、學術無ケケレバ、内、定見無シ、外、物ニ隨テ移ルハ、自カラ其ノ理ノミ、夫レ學、講セズ、術、修メズ、焉焉トシテ誰カ適守ヲ知ラン。復々偉然ノ丈夫ト雖、能ク惑無カラシヤ。然ラハ則、今ノ時ニ方リテ之ヲ講修研明スルハ、國家ヲ持スル所以ノ策ニ於テ、豈ニ一日モ忽ニスベキ者ナランヤ。而シテ此レ亦、吾人國家ヲ憂フル者ノ責ニ非ズヤ。无邪志會ノ設ハ。乃チ此ガ爲ナリ

夫レ无邪志ハ武藏ナリ。又、邪志无シト通ス。其ノ會ハ、則、之ヲ武藏ニ創立セル是ナリ、其ノ意ハ、則、一世ノ邪志无キ者ヲ會スル是ナリ、故ニ何レノ國郡ヲ問ハズ、何レノ種族ヲ問ハズ、何ノ職業執守ヲ問ハズ、農夫モ容レ、商工ノ民モ容レ、醫師方

術ノ士モ容レ、畫工劔客片能薄技ノ人モ容レ、法理ヲ論スル者モ容レ、文學ヲ講スル者モ容レ、教育ヲ談スル者モ容レ、厚生利用ヲ説ク者モ亦容レ、老成練達ノ人、少壯有爲ノ士、是ノ會ト意ヲ同クシテ邪志无キ者、皆ナ容レサルト莫シ。噫、世ノ邪志无キ者、何ノ限カララン。西ヨリ東ヨリ、南ヨリ北ヨリ、是ノ志ヲ抱テ來ル者ハ、則是ノ會ノ拒マサル所、此レ是ノ會ノ由テ名ツクル所ナリ。

諸君、獨リ夫ノ不盡ノ嶽ト、刀寧ノ氷トヲ見ズヤ、其ノ大サ、兩岸ノ間、牛馬ヲ辨ズルヲ能ハザル者ハ、豈ニ一涓滴ノ積ニ非ズヤ、其ノ高サ、白雲ヲ出テ、青霄ヲ摩ル者ハ、又豈ニ一拳石ノ積ニ非ズヤ。諸君若シ細微ノ積ハ、適ニ此ノ高大ヲ致スニ足ルヲ知ラズ、一人ヲ推シテ、十百人ニ及ボシ、十百人ヲ推シテ

千万無量ノ人ニ及ボシ、武藏ヨリ起リテ一世ニ及ボサンコ、
 唯諸君ノ共心戮力ノ如何ニ在テ、難キコト無キノミ。蓋シ孤獨
 ニシテ微薄、單弱ニシテ沮敗スルハ、想ニ亦諸君ノ恥ル所ナ
 ラン。
 抑我ニ美璞アリ、之ヲ楚王ニ獻スレバ、以テ欺ト爲シテ其足
 チ別ラル、此レ卞和カ荆山ニ哭スル所以ナリ。悲シイ哉味者、
 啻ニ其ノ玉ヲ知ラザルノミニアラズ、又將ニ一槌シテ之ヲ
 破ラントス。啻ニ之ヲ破ラントスルノミアラズ、又將ニ石ヲ
 韞ノ反テ以テ無價ノ珍ト爲ントス。噫、今ノ世、孰カ萬鎰ヲ惜
 マズシテ之ヲ玉人ニ命ズル者ゾ。願クハ之ト俱ニ之ヲ磨礪
 彫琢シテ、以テ守國ノ寶ト爲サン。此レ是ノ會ノ諸君ニ望ム
 所ナリ

无邪志會

明治廿三年四月一日印刷
 明治廿三年四月八日出版

01

著 作 者

中 島 端 藏

埼玉縣南埼玉郡久喜町百十二番地

發 行 者 兼 印 刷 所

藤 田 昌 幸

下谷區徒士町三丁目四十一番地

印 刷 所

今 古 堂

日本橋區新和泉町一番地

終

